

飼料用全粒^{もみ}米粉の給与割合が「ひょうご味どり」の生産性に及ぼす影響

「ひょうご味どり」における肥育後期の飼料中のトウモロコシと全粒米粉との適切な代替割合は、飼料効率と経済性を優先した場合は50%であり、肉質（脂肪酸組成）を重視した場合は100%である。

内容

「ひょうご味どり」に飼料用全粒米粉を自家配合によりトウモロコシと25%、50%、75%及び100%代替した飼料（全量中飼料用米割合はそれぞれ16.3%、32.5%、48.8及び65.0%）を給与し、生産性、産肉性及び経済性を比較した。

試験区には25%区、50%区、75%区、100%区及び対照区の5区分を設け、「ひょうご味どり」110羽を各区22羽ずつウィンドウレス鶏舎で4週齢から14週齢（出荷時）まで飼育した。

結果を表に示した。いずれの区においても嗜好性に問題はなく、健康状態は良好であった。雌雄平均体重は100%区が他の区に対して有意に軽かった。飼料要求率は50%区及び対照区が優れる傾向であった。正肉歩留まりは75%区が25%区、50%区及び対照区に対して有意に低かった。筋胃割合はすべての試験区が対照区に対して有意に高

かった（写真）。肉の色は代替割合に比例して淡くなる傾向がみられた。もも肉の脂肪酸組成のモノ不飽和脂肪酸割合は、100%区及び75%区が25%区及び対照区に対して有意に高かった。1羽当たり飼料費は100%区が最も少なく、正肉100g当たり飼料費は50%区が最も少なかった。

以上のことから、「ひょうご味どり」における肥育後期の飼料中のトウモロコシと全粒米粉との適切な代替割合は、飼料効率と経済性を優先した場合は50%であり、肉質（脂肪酸組成）を重視した場合は100%であると考えられた。

今後の方針

飼料用玄米についても同様の調査を行い、トウモロコシとの適切な代替割合を検討する。

龍田 健（家畜部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2429）

表 各区の成績比較

| 項目 | 25%区 | 50%区 | 75%区 | 100%区 | 対照区 |
|-------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 雌雄平均体重 (g) | 3,892a | 3,967a | 3,960a | 3,631b | 3,983a |
| 飼料要求率 ¹ | 4.18 | 3.88 | 4.24 | 4.40 | 3.77 |
| 正肉歩留まり (%) ² | 34.5a | 34.4a | 33.3b | 34.0ab | 34.4a |
| 筋胃割合 (%) ² | 1.35c | 1.34c | 1.46b | 1.71a | 1.06d |
| 肉の色 (もも) ³ | 3.19ab | 2.91bc | 2.64c | 2.28d | 3.45a |
| モノ不飽和脂肪酸割合 (%) | 42.1b | 43.9ab | 47.0a | 46.5a | 41.0bc |
| 1羽当たり飼料費 (円) ⁴ | 825 | 746 | 772 | 683 | 805 |
| 正肉100g当たり飼料費 (円) ⁴ | 61.5 | 54.7 | 58.5 | 55.2 | 58.8 |

a,b,c,d: 異符号間に有意差あり (p<0.05)

¹ 飼料消費重量÷増体重量

² 対生体重

³ 畜試式鶏標準肉色模型 (もも肉、1: 淡い~6: 濃い)

⁴ 初米価格: 32.4円/kg、二種混飼料価格: 59.2円/kg



25%区 50%区 75%区 100%区 対照区

写真 各区の筋胃